



# 第11回世界乳幼児精神保健学会世界大会

The 11th World Congress of World Association for Infant Mental Health

2008年8月1日(金)～5日(火)まで、パシフィコ横浜にて開催  
Date : Friday 1st - Tuesday 5th August, 2008 Venue : Congress Center, Pacifico Yokohama, Yokohama, Japan

演題登録の受付が始まりました。

登録締切2007年9月7日(金)



<http://www.waimh-japan.org/>



赤ちゃんに乾杯！ Celebrating the Baby:Baby in Family and Culture. Akachan-ni Kanpai!

私たち日本組織委員会は、この大会で多くの仲間が心を一にして話し合える場を創り出したいと願っています。そこでは、誰もが専門性の壁を越えて、互いに手を取り合い、世界中の赤ちゃんや家族のために力を出し合えるでしょう。

私たちは、この社会をもっと赤ちゃんに優しく、赤ちゃんの立場に立った社会に変えていくことを目指していますので、赤ちゃんの幸せこそが、私たちの目指すものなのです。

全ての赤ちゃんは、病気や問題があろうとなかろうとも、等しく喜びをもって迎え入れられ、大事にされる価値があるのです。

日本組織委員会 会長 渡辺久子

In this congress we are resolved to create a truly uniting forum where people discard their barriers and come together to dedicate themselves to better the well-being of babies and families worldwide.

So the baby's happiness is at the very center of our resolution as we aim to change this society into a more baby-friendly, baby-centered place.

Each baby deserves to be welcomed, rejoiced and cherished as it is whether it has an illness, a problem or not.

*Hisako Watanabe*

# 演題登録のご案内

WAIMH2008世界大会で乳幼児の研究や活動を発表してみませんか。どなたでも応募できます。

第11回世界乳幼児精神保健学会世界大会の演題発表を、赤ちゃんに関わる多くの皆さまから募集しています。日頃の活動や研究成果を、日本から世界に発信し、世界と交流する得がたい機会です。発表は学会員でなくても可能です。

## 発表分野

乳幼児やその家族の精神保健に関連する幅広い分野での発表を求めています。

【参考例（五十音順）】

- アセスメント：診断と臨床の問題
- アタッチメント研究と臨床的障害
- アルコールとドラッグ（薬物依存）
- 異文化研究
- 親-乳幼児心理療法の評価
- 家族の法律上の問題のための評価：児童虐待と親権を含めて
- 子育てと家族プロセス
- 自閉性スペクトラム障害
- 情動制御と気質の障害
- 精神力動的心理療法
- 青年期の子育て（若い親）
- 乳幼児精神保健サービス
- 乳幼児抑うつと早期の精神病理
- 母子相互作用
- 父子相互作用
- 未熟児とハイリスク児
- 養育の文脈
- 予防的介入と共同体の文脈
- その他

## 発表形式

発表形式は次のとおりです。

- 1) クリニカルティーチン 90分
- 2) ポスター 半日掲示、発表指定時間あり。
- 3) ポスターワークショップ 90分
- 4) ワークショップ 90分
- 5) シンポジウム 90分
- 6) ビデオ形式の発表 45分以内（VHS形式のものに限る）

演題募集及びその採否はWAIMH世界本部が行います。 <http://www.waimh.org/>

## 演題登録の方法

演題登録の抄録は英語のみとします。演題抄録の採否は、筆頭演者へ2008年1月15日までに、メールで連絡をします。

### 演題の登録先

WAIMH世界本部まで。オンラインで受け付けます。

- URL：<http://www.waimh.org/>  
締切 2007年9月7日午後11時59分（米国東部地区標準時間）

### 注意事項

抄録は同じ分野の研究者により名前を伏せて審査します。受理された短文の抄録はInfant Mental Journal誌の付録としてウェブサイトに掲載されます。演題登録をした場合は、登録者の少なくとも一人は会費を払って大会に参加して下さい。

## 演題の登録方法

演題登録には、短文抄録と長文抄録との2種類の登録が必要です。

- 短文抄録（規定の様式）：250 words（文字）以内の抄録（演題名、氏名を除く）を提出。文字は行間をあげず段落なしとします。
- 長文抄録：長文抄録は、審査のためダブルスペースで（行間をあげる）最大2ページ以内で提出してください。

世界本部ウェブサイトの申込ページに関する情報は、日本組織委員会ウェブサイト (<http://www.waimh-japan.org/>) でご案内いたします。

演題登録について、気軽にお問い合わせください。

## 問い合わせ窓口

演題登録、その他について、気軽にお問い合わせください。

FAX：03-4477-5431 URL：<http://www.waimh-japan.org/> e-mail：[toiawase@waimh-japan.org](mailto:toiawase@waimh-japan.org)

### ■寄付のお願い

WAIMH世界大会2008が、アジアで始めて、日本で開催されます。この大会を成功させるため、多くの皆様からの寄付をお願いしております。

寄付は日本人参加者により良く理解していただくための同時通訳費用や、アジアの参加者をサポートするための費用などに利用させていただきます。

ご協力いただけます場合は、お名前、ご住所を問い合わせ窓口のFAX又はe-mailにご連絡いただき、以下の銀行口座に振込をお願い申し上げます。

### <募金の方法>

一口 二千元（何口でも可）  
振込先：三井住友銀行 下丸子支店 普通預金  
口座番号：3899865  
口座名：WAIMH2008準備委員会会長渡辺久子

### ■ボランティアについて

私たちは、大切に思うことを共有できる多くの方々と共にWAIMH2008を創っていきたいと考えています。あなたも、ボランティアスタッフとして、参加しませんか？ 詳細はウェブサイトをご覧ください。

# WAIMHは乳幼児精神保健にかかわる多分野にまたがる国際的な学会です。

- < 乳幼児期の情緒的な体験が後の正常もしくは精神病理学的な発達に及ぼす影響についての教育・研究・調査 >
- < 両親・家族・その他の乳幼児を世話する人々の精神保健の研究調査 >
- < 乳幼児期の精神的損傷へのケア、介入、予防などに関する科学的な根拠に基づいたプログラムの促進 >
- < 乳幼児とその家族の適切な発達を促進することに関わる個々の研究者の国際的な協力 >

## 横浜大会では毎日4会場に同時通訳を配置します。

ポスター発表会場にも通訳ボランティアを配置し、お手伝いをさせていただきます。

## 2008年横浜世界大会のプログラムハイライト

プレコングレス講演 (予定) : Arnold Samaroff, Bertrand Cramer, Daniel Stern, etc.

プレナリー講演 (予定) : Marc Bornstein, Dieter Bürgin, Robert Emde, Mechthild Papousek, Tuula Tamminen, Hisako Watanabe, etc.

プレナリーインターフェイス講演 (予定) : Neil Boris, Nina Koren, Miri Keren, David Oppenheim, Mechthild Papousek, Sandra Serpa-Rusconi, etc.

マスタークラス講演 (予定) : Massimo Ammanti, Neil Boris, Nadia Brushweiler-Stern, Elisabeth Fivaz-Depeursinge, Antoine Guedeney, Karl Heinz-Brisch, Miri Keren, Susan McDonough, Joy Osofsky, Campbell Paul, Kaija Puura, Arnold Samaroff, Rachel Schiffman, Elizabeth Tuters, Kai von Klitzing, Deborah Weatherston, etc.

## 前回2006年パリ世界大会のプログラムの一部を紹介します。

### 参考資料

WAIMHという学会では、どんなことが話題になっているのかそんな疑問をお持ちの方、演題発表を考えている方へ。

### 《第10回世界乳幼児精神保健学会世界大会（パリ大会）のプログラム》 会期：2006年7月8日～12日

#### <プレコングレス>

#### 1. 「精神保健と発達障害の診断基準：0-3歳」

改訂版一臨床および研究における利点

Robert N Emde, Antoine Guedeney, Jean Thomas, Helen Egger (米国)

Miri Keren (イスラエル) Brian Wise and Harry Wright (米国)

#### 2. 乳児期から青年期：予測または予防

Bernard Golse, Matine Caron-Lefevre, Peirre Delion, Grazia Maria

FavaVizziello, Sylain Missonier, Francisco Palacio-Espasa, D.Knauer,

Biase Pierre, Humbert (フランス)

#### 3. 周産期における予防：フランス人の経験「周産期精神医学の新しい予防政策」

Francoise Molenat (フランス)

Sam Tyano (イスラエル) and Thomas O' Conner (米国)

#### 4. 災害後の幼い子どもたちとの仕事

[司会] Charles Zeanah (米国)

小児期初期（幼児期）のトラウマの脳に与える影響 Nathan Fox (米国)

幼児とニューヨークの9月11日襲撃 Daniel Schechter (米国)

非虐待乳幼児のハリケーン・カトリーナ後の状態 Charles Zeanah (米国)

津波の後のバンダアチェの幼児 Marie Rose Moro (米国)

Muriel Genot (フランス)

ルワンダ大虐殺へのコミュニティの反応 Neil Boris (米国)

#### <マスタークラスセッション>

#### 1. コミュニティ・ネットワークと働く：サービスの届きにくい困窮。家族の中で暮らす心理社会的ハイリスク乳児への予防と治療アプローチ

Martine Lamour (フランス)

家が病院の場合：病弱乳児とその家族、病院とともに働く

Campbell Paul (オーストラリア)

アタッチメント障害の診断と治療 Karl Heinz Brisch (ドイツ)

相互作用から心的表象へ：理論、研究結果、臨床への示唆

Kai von Klitzing (スイス)

#### 2. 親-乳幼児精神療法家の訓練：(ビデオ、直接観察、論文研究、グループによる内省を用いた) 乳幼児観察の原則の適用

Elizabeth Tuters (カナダ)

親-乳幼児精神療法：短期のワークをいかにゆっくりおこなうか

親と乳児と精神的分析的にいるあり方 Dilys Daws (イギリス)

臨床的障害とアタッチメント障害の査定 Neil Boris (米国)

#### 3. 子どもの感情経験への母親の洞察性：健全な状態とハイリスクな状態での子どもの発達におけるその重要性 David Oppenheim (イスラエル)

相互作用ガイダンスにおける家族の観点

Monica Hedenbro (スウェーデン)

関係に基盤をおく初期の介入：家庭とコミュニティを基盤とするアプローチ Hiram Fitgald (米国)

乳児は家族のトラウマを顕わにする：親-乳幼児治療における葛藤の世代間伝達 渡辺久子 (日本)

#### 4. スーパーバイザー関係内でのコンピテンシーと脆弱性の共有経験

Deborah Weartherston (米国)

過去の利用：フロイト、スピッツと乳児の精神保健

Robert Emde (米国)

歴史との格闘：乳幼児精神保健の臨床において、2者関係から家族関係に概念の再構成へのチャレンジ James McHalle (米国)

#### <プレナリー>

#### 1. (特別講演) 臨床における乳幼児期の意味：今考えていること Daniel Stern (米国)

#### 2. 著名な行動に関する講義の10年：「2 for 1」対「2 against 1」

家族トライアングルにおける乳児のコミュニケーション

Elisabeth Fivaz-Despeuringe (スイス)

#### 3. 母親と乳児の関係が成人初期の乖離的症候、境界例、行為症状に与える寄与 Karlen Lyons-Ruth (米国)

#### 4. 家族と社会的文脈におけるアタッチメント障害

Charles, Zeanah (米国)

#### <プレナリー・インターフェース>

#### 1. 親へ移行する臨床家族における2者の相互作用と3者の相互作用のインターフェース

Miri Keren (イスラエル)、Marie-Jose Herve (フランス)、

Diane Phillips (カナダ)

#### 2. 臨床的な母子2者関係におけるアタッチメントと間主観性のインターフェース

Dieter Buergin (スイス)、George Downing (フランス)、

Ute Ziegehain (ドイツ)

#### 3. 治療的アプローチ間のインターフェース：世代間伝達をいかに断ち切るか? Mechthild Papousek (ドイツ)、Nicole Guedeney (フランス)

参加登録は2008年1月からとなります。

ウェブサイトで早期登録(割引料金)のご案内をいたします。

## 後 援

厚生労働省  
横浜市  
神奈川県  
東京都  
慶應義塾大学

FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会

日本医師会  
日本産科婦人科学会  
日本産婦人科医会  
日本小児科医会  
日本小児科学会  
日本小児外科学会  
日本小児看護学会  
日本小児救急医学会  
日本小児心身医学会  
日本小児神経学会

日本小児精神神経学会  
日本小児保健協会  
日本外来小児科学会  
日本看護科学学会  
日本公衆衛生学会  
日本児童青年精神医学会  
日本周産期・新生児医学会  
日本助産学会  
日本助産師会  
日本新生児看護学会  
日本心理臨床学会  
日本精神分析学会  
日本乳幼児医学心理学会  
日本発達心理学会  
日本保育学会  
日本母性衛生学会  
日本未熟児新生児学会

日本臨床心理士会  
日本医療保育学会  
社会福祉法人全国社会福祉協議会  
全国私立保育園連盟  
全国児童相談所長会  
全国病児保育協議会  
全国養護教諭連絡協議会  
恩賜財団母子愛国会  
子どもの虹情報研修センター  
赤ちゃん成育ネットワーク  
日本母乳の会  
母子衛生研究会  
関東子ども精神保健学会  
神奈川県児童医療福祉財団  
SIDS(乳幼児突然死症候群)家族の会

## 第11回世界乳幼児精神保健学会世界大会日本組織委員会

会長	渡辺久子	慶應義塾大学医学部小児科学教室
副会長	堀内 勁	聖マリアンナ医科大学小児科学教室
企画委員長	渡辺とよ子	東京都立墨東病院周産期センター
プログラム委員長	吉田敬子	九州大学病院精神科神経科
財務委員長	小林隆児	東海大学健康科学部社会福祉学科
募金委員長	仁志田博司	東京女子医科大学母子総合医療センター
通訳委員長	濱田庸子	慶應義塾大学環境情報学部
学術委員長	丸田俊彦	メイヨ・クリニック精神科
アジア交流委員長	本城秀次	名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター
出版委員長	本間博彰	宮城県子ども総合センター
広報委員長	廣瀬たい子	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科
社交委員長	青木紀久代	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
展示委員長	池田一成	慶應義塾大学医学部小児科学教室
会場委員長	澤田敬	高知県立中央児童相談所
地域交流委員長	横田俊平	横浜市立大学医学部小児科
監事	柳澤正義	日本子ども家庭総合研究所
	瀬川昌也	瀬川小児神経学クリニック
事務局長	橋本洋子	山王教育研究所
副事務局長	酒井道子	慶應義塾大学医学部小児科学教室

(ボランティア委員長兼務)

## 顧問

小倉清	クリニックおぐら
古澤頼雄	元中京大学大学院心理学研究科教授
小林登	東京大学名誉教授・国立小児病院名誉院長
竹内徹	元大阪府立母子保健総合医療センター病院長
津守眞	お茶の水女子大学名誉教授
土居健郎	聖路加国際病院精神科
丹羽淑子	元花クリニックダウン症母子発達相談カウンセラー
馬場禮子	山梨英和大学大学院教授
藤井とし	元東邦大学客員教授
前川喜平	神奈川県立保健福祉大学教授
松尾宣武	国立成育医療センター名誉総長
三宅和夫	北海道大学名誉教授
山崎晃資	目白大学教授

## 名誉組織委員

石井哲夫	全国保育士養成協議会会長・日本自閉症協会会長
市川宏伸	東京都立梅が丘病院院長
上田礼子	元沖縄県立看護大学学長
鹿島晴雄	慶應義塾大学医学部精神神経科学教室教授
勝島聡一郎	横浜市こども青少年局児童相談所統括担当部長
加藤哲夫	秋田大学名誉教授・秋田労災病院院長
狩野力八郎	東京国際大学教授
北山修	九州大学大学院人間環境学研究院教授
後藤彰子	神奈川県立こども医療センター顧問
小林美智子	大阪府立母子保健総合医療センター発達小児科主任部長
齊藤万比古	国立精神神経センター国府台病院リハビリテーション部長
才村真理	帝塚山大学教授
清水将之	関西国際大学教授
白瀧貞昭	武庫川女子大学教授
白橋宏一郎	国立病院機構仙台医療センター名誉院長
高橋孝雄	慶應義塾大学医学部小児科教授
滝口俊子	放送大学教授
多田裕	実践女子大学教授
鶴光代	跡見学園女子大学教授
中久喜雅文	聖マリアンナ医科大学精神科客員教授
中野仁雄	九州大学名誉教授
南部春生	朋佑会札幌産科婦人科名誉院長
深津千賀子	大妻女子大学教授
松本英夫	東海大学医学部精神科学教授
三宅捷太	済生会横浜市東部病院重心施設「サルビア」施設長
村瀬嘉代子	大正大学教授



第11回世界乳幼児精神保健学会世界大会 日本組織委員会事務局

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 慶應義塾大学医学部小児科学教室内

FAX: 03-4477-5431 URL: <http://www.waimh-japan.org/> e-mail: [toiawase@waimh-japan.org](mailto:toiawase@waimh-japan.org)